

令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価（3月30日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	①教科等横断的な視点に立ち、確かな学力と生きる力を育む教育課程を編成する。 ②教育の情報化、ICTを活用した教授法の研究に組織的に取り組み、授業力向上を推進する。	①新教育課程に即した形での年間指導計画を整備し、円滑な移行が行えるよう準備を行う。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを活用するとともに指導と評価の改善に向け組織的な授業改善に取り組む。	①新教育課程に関する外部情報を収集し、生徒一人ひとりの進路実現に向けての科目の設定・整備を行う。 ②授業改善アクションプランを作成、検証し、改善策を常時検討する。ICT、ループリックを活用した授業改善ワークショップ、授業改善研修会を実施し、授業力向上をはかる。	①生徒一人ひとりの進路実現に向けて、カリキュラムマネジメントの視点も踏まえ、わかりやすい形での科目設定・整備を行えたか。 ②授業改善アクションプランの策定や、ICT、ループリックを活用した授業改善研修会を行ったか。	①新教育課程における学校設定科目について、科目名や内容などを教育委員会との協議を踏まえて設定し開講準備を行った。 ②ループリックを活用した指導と評価の改善、来年度以降の方針について議論を深めることができた。 ③オンライン学習による学習効果を高めるために、オンラインPTでの検討を元に、授業パターンや必要な資料を作成し、構成内容等の共通化を図った。	①文部科学省の方針に基づき、専門教科科目の扱いなどの議論を深め、総合学科である本校の特色を体现する授業展開に向けて、指導・評価の改善、一体化についても準備を行っている。 ②11月に開催した授業改善研修会において各教科から出された課題と方向性を踏まえ、カリキュラムマネジメントを推進し、指導評価の一体の実践を進める。	①4月から指導要録への記載が求められる観点別学習状況による評価を行うための校内研修の充実が伺えた。特に公開授業や授業の相互観察によって、教科を越えたヒントがある。一方で、「教科の特質」に迫るための学びの改善やICT活用かと思えますので、さらに検討を進めて欲しい。 ②学んでいる生徒がVUCAの時代を生き抜くために必要な力を身に付けることができる教育課程や学習指導が重要になるかと思えます。授業改善ワークショップや日々の蓄積で得られた改善点についてスピード感をもって対処していただきたい。	① 昨年度編成した新教育課程の実施に向け、年間指導計画を作成し円滑に新教育課程に移行できるよう準備を進めた。 ② 昨年度同様、各教科で授業改善に向け、授業改善アクションプランを作成、検証し、次年度に向けた改善策を検討した。ループリックを活用した授業改善ワークショップ、授業改善研修会を計画的に実施し、各教科で工夫した授業・評価の方法を学校全体で共有した。 ③令和4年度以降の1人1台端末を見据え、昨年度以上にICT機器を多くの授業で活用した。授業パターンや必要な資料と構成内容等の共通化を図り、オンラインを通じての探究的学習とその評価方法について学校全体で議論を進めることができた。	① 令和4年度教育課程の授業概要をホームページに掲載し、新教育課程への円滑な移行を進め、そのうえで生じた課題を整理していく。 ① キャリアパスポートの作成を計画的に行えるよう、定期的に時間設定し、生徒の様々な活動を記録し蓄積を図り、その活用の方法を議論する。 ② 新学習指導要領の考え方のもとで単元設計を行うとともに、ループリック等を活用した指導と評価の一体化に向けた授業改善研修会を今後も計画的に行う。 ③ICT機器を活用した授業設計および学習課題の提示に各教科で取り組み、研修の機会を充実させる。またその効果の検証も併せて行う。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒と保護者が安心できる学校環境を整備したうえで、生徒一人一人に満足感と自己肯定感を醸成する取組を推進する。 ②「いのちの尊重に関する教育」を充実させ、社会性・自主性を育む取組を推進する。	①生徒が安心して学校生活を送れるよう生徒の実態把握を行うとともに、基本的生活習慣の確立を図る。 ①生徒が健全な学校生活を営むことができるよう制服について検討する。 ②「いのちの尊重に関する教育」について自己肯定感を高めるとともに、他者理解につながる取組を行う。 ②部活動・委員会活動に参加する生徒の満足度向上を図る。部活動加入率を高めた。生徒への声掛け等により部活動加入率を高め、積極的に活動する生徒を増やしていく。 ②SC、SSWと連携し、安全安心な学校づくりのためより効果的な生徒支援体制を構築する。	①面談、立ち番、巡回指導等を継続する。また情報共有し、学校全体で指導・支援を行う。 ①制服に関するアンケートを行い、実態把握を行う。 ②面談、いじめアンケートを活用し、生徒の実態把握に努め、組織的に指導・支援の充実を図る。 ②部活動・委員会に教職員が積極的に参加することができた。また、部活動加入率を高めた。積極的に活動する生徒を増やすことができた。 ②生徒からの相談に対して素早く組織的に情報を共有し、学校全体で支援することができたか。	①指導・支援の結果、遅刻数、特別指導数が減少したか。 ①制服の見直しが行えたか。 ②生徒の問題行動に対し、早期解決に向け、組織的に対応できたか。 ②部活動・委員会に教職員が積極的に参加することができた。また、部活動加入率を高めた。積極的に活動する生徒を増やすことができた。 ②生徒からの相談に対して素早く組織的に情報を共有し、学校全体で支援することができたか。	①日頃から声掛け情報共有を行い、全体で指導支援を行った。 ①制服アンケートを実施し、生徒の意見を踏まえ、規定を変更した。 ②面談等を活用し、生徒の実態把握に努め、保護者と連携しながら指導支援を行う。 ①生徒が健全な学校生活を営み、充実した学校生活を送れるよう引き続き校則の見直しを行った。 ②年度当初に、LHRや年次集会等で学校生活のルールを周知・確認するとともに、基本的生活習慣の確立を図り、問題行動等を未然に防止するための指導支援を行う。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響の可能性もあるが、部活動加入率が35%と低迷している中で、積極的に生徒へ声掛けを行い、部活動の活性化を図る。 ②コーディネーター会議の頻度が高まったことによりメンバー内の情報共有は円滑になった。	①新型コロナウイルスの影響から、個別支援の必要性が高まっている状況が続いている。特に、基本的生活習慣の確立でも、自宅や個別での学習機会が増えると、様々な面で同年代との交流機会の減少によって、コミュニケーション力の向上する機会の減少が懸念される。引き続き、落ち着いたまですらに手厚い配慮をお願いしたい。 ②新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常授業から学校行事・部活動にいたるまで、様々な制限がある中で活動となっている。その中で過ごしている生徒たちは、モチベーション低下などの影響がある。生徒が社会的に孤立しないような支援が重要な取り組みになるかと思う。	①今年度も分散登校、時差登校と生徒にとって生活リズムを作りにくい環境であったが、面談、立ち番、巡回指導を継続的にやり、生徒への関係性を深める取り組み、情報共有を行った結果、遅刻数、特別指導も減少傾向にあった。 ①面談、アンケート等を活用し、生徒との関係性を深めるとともに、生徒の実態把握に努め、基本的生活習慣の確立を図るような丁寧な指導・支援の取組を引き続き行う必要がある。 ① 生徒が健全な学校生活を営むことができるよう、引き続き校則の見直しを行っていく必要がある。 ②部活動・委員会活動・行事について、様々な制限が長期間続いている中で、生徒のモチベーションを低下させないことを第一として、今後も感染症対策を施しながら工夫し、生徒の活躍の場と自己実現の場を提供していく。 ②今年度、教育相談体制を充実させてきたが、今後はコーディネーター会議のメンバーだけでなく、学校全体での更なる効果的な支援体制を構築し、安全安心な学校づくりを実現する。		

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月22日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①新入試制度や経済状況の変化に対応した進路指導を充実させる。 ②多様な進路希望の実現により自己肯定感を育み、社会的・職業的に自立できる人間を育成する。	①生徒一人ひとりのニーズに対応した進路支援を行うため、ガイダンス科目を利用した進路支援と、進学や就職のより丁寧な指導・支援を行う。 ②外部機関や地域と積極的な連携を図る。 ②ニーズに応じた多面的観点からの職業理解を進め、生徒が自らの個性を肯定的に捉えられるような適性理解を支援する。	①就職希望の生徒には今まで通りチューター制を行うだけでなく、進学希望の生徒にも「相談員」を設置し支援体制の充実を図る。 ②直接対面のほかにオンラインを併用して外部機関や地域と学校をつなぎ、実社会について学ぶ機会を設ける。 ②キャリアパスポートを活用し多面的観点からの3年間の進路支援体制を検討する。	①就職希望者の進路実現の達成度が90%以上であったか。また、進学の生徒に対しても計画的に支援ができたか。 ②学校外の職業人と接する機会を設けられたか。 ②キャリアパスポートを利用した学びの蓄積の可視化に取り組むことができたか。	①就職希望者、進学希望者ともそれぞれの生徒に「相談員」を置いて、書類作成や面接等で全校的に指導支援する体制を取り入れられた。 ②各年次ともガイダンス科目の授業において、外部講師による講演や説明会を行い、実社会についての認識を深める機会を設けた。 ②キャリアパスポート記入の時間を定期的に設け、学びの蓄積に努めた。	たが、今後は全体での共有を図る。 ①就職希望者の1月末時点での内定率は72%であり、引き続き全希望者の進路実現に向け計画的支援を継続する。また、進路変更により、新たに就職を希望する生徒には、卒業後も支援できる体制をつくる。 ②ガイダンス科目だけでなく、他教科の授業や学校行事などでも生徒がかかわられるような計画を立てる。 ②中学校と高等学校での学びの蓄積の可視化に向け、キャリアパスポート活用の基礎的な取り組みを進める。	①就職を希望している生徒が、確実に就職できるような引き続きの支援をお願いしたい。卒業後に進路相談できる体制作りは良い取り組みであると思うが、その仕組みを利用する生徒への周知の検討が重要になる。 ②様々な形で3年間の中で段階的に配置されるとよい。カリキュラム・マネジメントの視点からの年間指導計画や教科間のつながりなどの俯瞰の機会があるとよい。 ②高校進学の地域性が多様なので、共有が難しいが、クラウド等の有効活用を検討できるとよい。	①就職希望の生徒の内定率は3月末現在97%になった。ハローワークと連携を取り今後も支援していく必要がある。また、「相談員」制度を取り入れある程度の成果があったが担業務との連携が必要である。 ②ガイダンス科目の授業に外部講師による講演等を行うことができた。通信機器の整備とともに、安定した運用態勢を整える必要がある。 ②生徒が自身の学校生活を振り返る教材やキャリアパスポートを活用し、学びの蓄積を可視化した。3年間を通した取り組みとする必要がある。 ②課題研究発表会は、一部オンライン視聴とし、学校関係者には録画を視聴できる機会を設けた。今後さらに本校の教育活動に触れる機会が必要。	①生徒一人ひとりのニーズに対応した進路支援を実現するため、「相談員制度」の改善を行い、職員の協力が得やすい体制を構築する。 ①就職希望の生徒で卒業までに進路が決まらなかった生徒への支援体制を検討していく。 ②キャリアパスポートは定期的な記入の機会を設定し、3年間を通した学びの蓄積の可視化に取り組む。 ②今後もオンラインのよさを生かし、外部機関や地域、学校関係者と積極的な連携を図る。
4	地域等との協働	①地域社会との交流を深め、協働態勢を構築し、信頼される学校づくりを進める。 ②社会に開かれた教育課程の実現を目指す。	①生徒主体の、目に見える地域交流活動を進める。 ②地域や社会の教育力を積極的に取り入れ、連携及び協働による学びを進める。	①ボランティア委員会や部活動を中心とした地域清掃や施設訪問を行う。 ②コンソーシアム等を活用し、企業や地域と連携した課題解決型の授業を行う。	①ボランティア委員会や部活動を中心とした生徒たちが自発的に地域交流に参加したか。 ②外部と連携した授業実践回数を増やし、成果を外部発信できたか。	①ボランティア委員会による古着回収を行い、地域の福祉施設と交流した。部活動単位の地域清掃等の取り組みを進めた。 ②コンソーシアムに新規登録された事業者との課題解決学習を11月に実施した。	①ボランティア活動を文化祭などの学校行事と関連づけて実施する。全生徒と保護者が積極的にかかわれる活動形態を考える。 ②地域芸術祭アルテリッカや、麻生区地域振興課等との連携に継続して取り組む。	①現在の社会状況が流行と沈静化を繰り返す中で難しいが、オンラインによるボランティアや地域行事の参加などの工夫も今後必要である。 ②コンソーシアムの仕組みを活用し、企業や上級学校との連携授業など増やし、総合学科ならではの学びにつなげていくと良い。	①今年度も限られた場となったが、地域交流やボランティア活動を実施した。活動の場を更に広げるとともに、オンラインや学校行事と組み合わせた活動を考える必要がある。 ②コンソーシアム連携である日本政策金融公庫の協力を仰ぎ、課題解決型の授業を行うことができた。	①オンラインを利用した地域貢献活動、ボランティア活動の形を支援する。 ②今後もコンソーシアムや高大連携を活用し、必要に応じてオンラインを活用しながら、社会と連携・協働し、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養に向け、課題解決型の連携授業を継続して行う。
5	学校管理 学校運営	①教職員一人ひとりが、不祥事を自らのことと認識し、生徒・保護者等から信頼される学校運営を行うとともに、教員の働き方改革を推進する。 ②生徒の安心安全な生活を守るため、災害対応力及び環境への意識を高める。	①研修会等により不祥事防止の職員意識を一層高め、不祥事ゼロをめざす。 ①長時間勤務の是正へ職員の意識を高め行動に繋げる。 ②生徒の安心安全な生活を守るために、防災や環境問題への意識を高める教育をする。	①不祥事防止研修を時宜に応じ実施し必要情報を共有し実効的に意識を高める。 ①ノー残業デーや文書整理日を活用し業務の効率化を一層図る。 ②DIGやその他実践的な防災訓練を行い、防災への意識を高める。 ②清掃などの身近な活動を通して環境に対する意識を高める。	①不祥事防止研修を行い適切な情報提供のもと職員意識を高められたか。 ①ノー残業デーを軸に、文書整理日の活用等で業務の効率化が図れたか。 ②生徒の防災への意識は高まったか。 ②生徒の環境問題への意識は高まったか。	①動画を用いた県のプログラム等も生かした効果的な不祥事防止研修を行った。 ①ノー残業デーが必ずしも十分機能しなかった。 ②生徒へのDIG研修や喫食訓練、また机上訓練にはなったが防災避難訓練も実施することが出来た。 ②日常の清掃に加え、定期テスト前には月例清掃も行き、校内環境を良くすることが出来た。	①不祥事防止会議の位置づけを整理したことを生かすより組織的計画的な研修等を行う。 ①職員それぞれが率先働き方改革を図れるよう、具体的な取組が必要である。 ②様々な訓練によって生徒の防災に関する意識を高めることが出来た。次年度もより意識を高められるような訓練を検討する。 ②校内環境について生徒の意識を高めることが出来た。次年度もさらに校内環境をよくすることを検討する。	①不祥事防止は、県の必須かと思いますが、ポジティブになれるようなアプローチの機会も含めて、教師としてのプライド、地域の期待などを実感できることも大切かと思う。 ①設置したノー残業デーが十分に機能しなかった要因を分析し、次年度、実効性のある制度になることが大切かと思う。 ②近年の線降雨帯などの気象の変化や関東直下型地震への対策など引き続き高い危機意識での準備を続けていただけるとよい。	①不祥事防止研修会等を22回実施、外部講師も活用し不祥事防止の職員意識を高めた。 ①教員の働き方改革の推進へ、ノー残業デー・学校閉庁日の設定、時間外勤務時間の管理を組織的に実施し長時間勤務是正への職員の意識を高めた。 ②机上訓練にはなったが、防災避難訓練を行い、またDIG研修に加えて喫食訓練も行うことができた。 ②日常の清掃や月例清掃を行うことにより、生徒の環境意識がさらに高まった。	①県民に信頼される学校づくりのために、不祥事防止には今後も取り組み、職員の当事者意識を高める。 ①教員の働き方改革は、長時間勤務是正に留まらず、仕事に対するやりがいやメンタルヘルスにも焦点を当てながら進める。 ②コロナ禍での防災訓練がまだ続いていく可能性が高いが、より実践的な防災訓練を検討していく。 ②身近な清掃活動を通して生徒の環境への意識をさらに高めしていく。